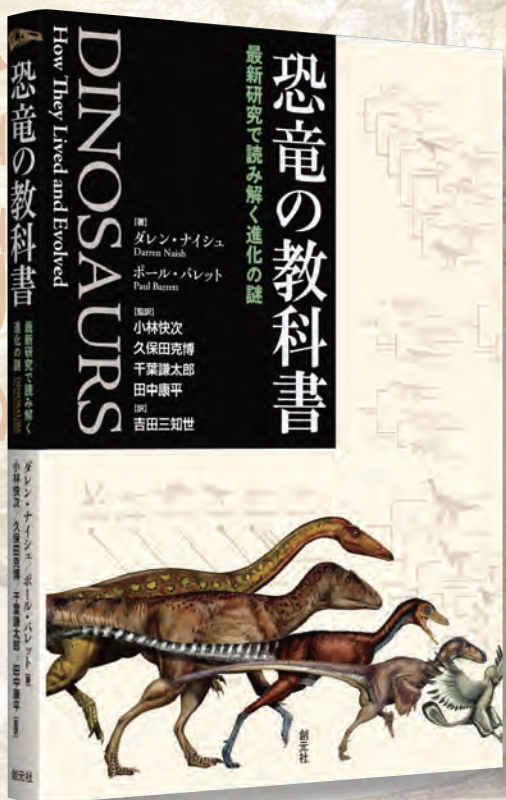


DINOSAURS  
How They Lived  
And Evolved

**地** 球上に登場した驚くべき生き物、恐竜。本書は、恐竜発見の黄金時代ヴィクトリア朝から21世紀の最先端の化石研究まで紹介、その謎を解き明かす。恐竜は、極端な気候条件に直面しながらも、進化によって絶対的優位に立ち、1億5000万年以上にわたり地球に君臨した。恐竜の体の構造、生態、進化、多様性、さらには白亜紀末の大量絶滅をいかに生き延び、今日の鳥類として存在するようになったか、写真や美しい復元図とともにオールカラーで解説する。



B5判・上製・240ページ（オールカラー）  
定価（本体 4,500円+税）

最新研究で読み解く進化の謎

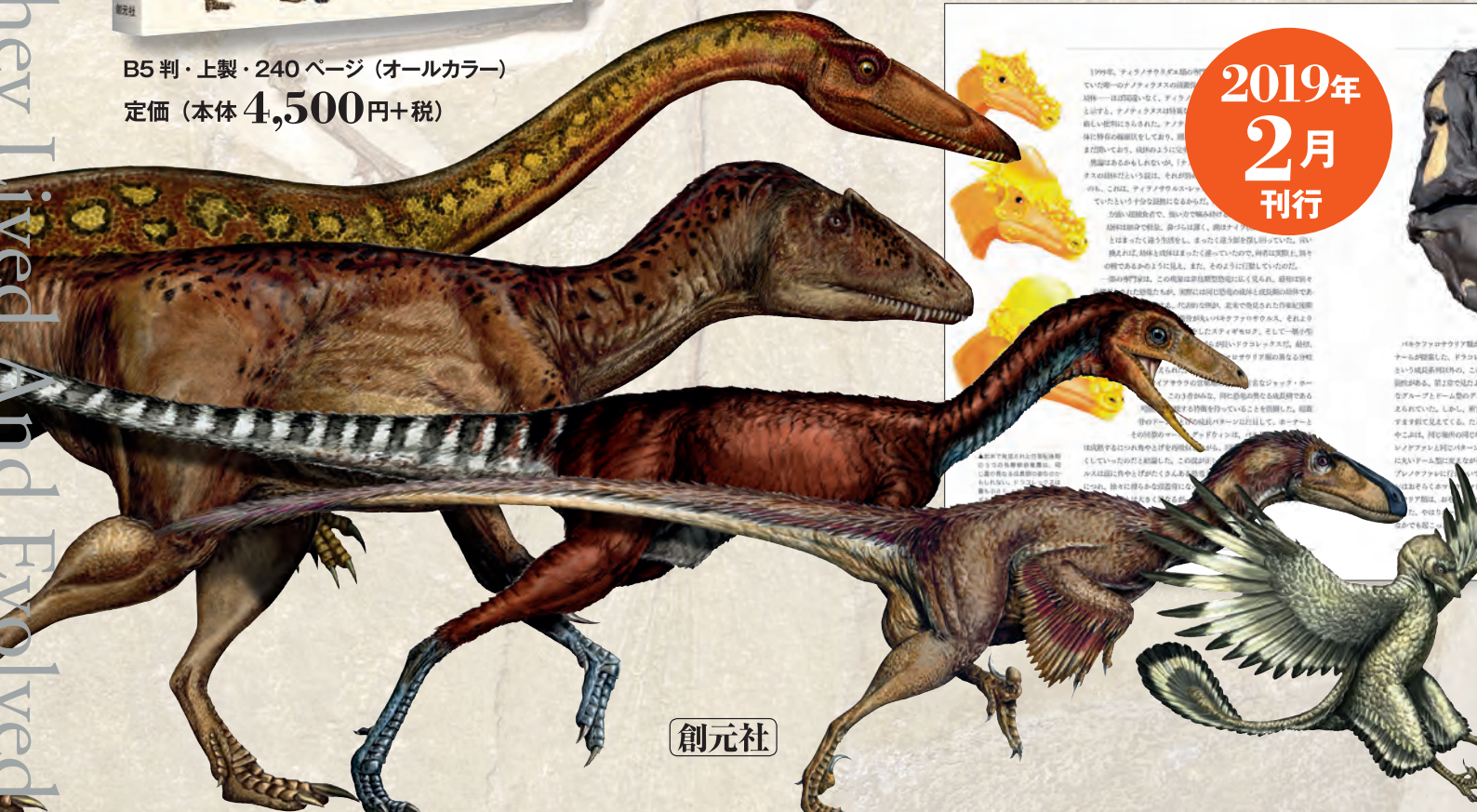
# 恐竜の教科書

最新の恐竜研究を  
知りたいすべての人に！

【著】  
ダレン・ナイシュ  
ポール・バレット

【監訳】  
小林快次／久保田克博  
千葉謙太郎／田中康平

【訳】  
吉田三知世



2019年  
2月  
刊行

創元社

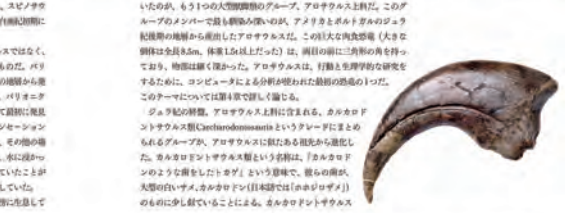




たりして断つて、他の恐竜たちを殺していたようだ。  
メガロサウルス上科のもう一つのグループは、まったく異なる方向へと進化した。長いウエーのような骨を持っており、種によっては、腕節のない四肢の腕と、腕内骨に発達した前肢を持っていた。これが、自然に存在した、水泳特化型で魚食性のスピノサウルス科である。

スピノサウルス科の骨の型が追加されたのは、1915年、骨中に何のような突起を持つ巨大なスピノサウルス *Spinosaurus* の化石が発見されたときのことだ。残念ながら、同種発見されたのは、この恐竜がどのような動物だったかに関する情報は、スピノサウルス科の中で最も少ない。メガロサウルス科に似た肉食動物だったのだろうと推測された。これは、種々の化石が第二次世界大戦中に発見されてしまった。1970年代以降、北アメリカのメキシコ、リビア、その他の場所でもかなりの化石が発見されている。これらに基づきスピノサウルス科と推定された化石の多くは、現在では、より正確なスピノサウルス科の骨と見做されている。種で大きく、身長14m、体重約10t、今日知られている範囲では最大と噂されるサイズだったようだ。種族は多く、水がよくなったと思われる広がりがあったはず。しなやかな骨を置いていた。これらの特徴から、スピノサウルス科は、当時北アメリカ全土に分布していた。入り江で育ちとして生活していたと考えられている。スピノサウルス科の近縁種にはアロサウルス科と推定されている。

スピノサウルス科に関する知識はほとんど、スピノサウルスではなく、パキオニクス属 *Pachycephalus* というグループから得られたものだ。パキオニクス属の化石は、オランダのリーワールトで発見された。パキオニクス属の化石は、オランダのリーワールトで発見された。パキオニクス属は、ワウのような突起を持つスピノサウルス科の骨と類似に見られた。パキオニクス科の骨は、現在ではほとんど一度だけ見られる骨と推定された。これは、オランダ、スペイン、ボトマ、その他の場所でも、パキオニクス科の化石（大抵は頭骨）が発見されており、非常に珍しい骨の化石だ。パキオニクス科の骨は、オランダのリーワールトで発見された。パキオニクス科の骨は、オランダのリーワールトで発見された。パキオニクス科の骨は、オランダのリーワールトで発見された。パキオニクス科の骨は、オランダのリーワールトで発見された。



いたが、もう一つの大型動物群のグループ、アロサウルス上科。このグループのメンバーでも最も顕著な特徴は、アロサウルス科のジョウロ状の骨から進化したアロサウルス。この巨大な肉食恐竜（大きな個体は身長5m、体重1.6t以上あった）は、両目の前に三つの角を持つており、肉食動物（肉食）だった。アロサウルス、行動と生理学的な研究をするために、コンピュータによる分析が可能な化石の形態学的な特徴。このグループについては詳しく見ていく。ジョウロ状の骨、アロサウルス科と推定される、カカロドン科 *Chirotheraps* というグループ。アロサウルス科と推定される恐竜に似た恐竜であるアロサウルス科。アロサウルス科と推定される恐竜に似た恐竜であるアロサウルス科。アロサウルス科と推定される恐竜に似た恐竜であるアロサウルス科。

著者

ダレン・ナيش Daren Naish

サイエンスライター、技術編集者、古生物学者。主に白亜紀の恐竜と翼竜を研究しているが、四肢動物すべてに関心を持っている。

ポール・バレット Paul Barrett

ロンドン自然史博物館の地球科学部門研究員。恐竜に関する科学論文を150件以上執筆しており、世界中を旅して、さまざまな恐竜を研究している。

監訳者

小林快次 (こばやし・よしつぐ)

1971年福井県生まれ。1995年ワイオミング大学地質学地球物理学卒業。2004年サザンメソジスト大学地球科学科で博士号取得。現在、北海道大学総合博物館准教授。獣脚類恐竜のオルニトミモサウルス類を中心に、恐竜の分類や生理・生態の研究をしている。主な著書に『ぼくは恐竜探検家！』（2018年、講談社）、『恐竜は減っていない』（2015年、角川新書）などがある。



久保田克博 (くぼた・かつひろ)

1979年群馬県生まれ。2008年筑波大学大学院生命環境科学研究科博士課程修了。博士（理学）。現在、兵庫県立人と自然の博物館研究員。小型獣脚類恐竜を中心に、恐竜の記載や系統関係について研究している。主な著書に『BCキッズはじめてのきょうりゅうずかん英語つき』（監修、2017年、講談社）、『恐竜えほんティラノサウルス』（監修、2017年、金の星社）などがある。



千葉謙太郎 (ちば・けんたろう)

1985年札幌市生まれ。2008年東北大学理学部卒業。2011年北海道大学大学院修士課程修了。2018年トロント大学大学院生化学進化生物学科にて博士号取得。現在、岡山理科大学生物地球科学部助教。角竜類恐竜の分類と進化、および、骨の内部構造に基づいて古生物の生理・生態を研究している。



田中康平 (たなか・こうへい)

1985年名古屋生まれ。北海道大学理学部卒業。カルガリー大学地球科学科修了。Ph.D. 日本学術振興会特別研究員（名古屋大学博物館）を経て、現在、筑波大学生命環境科学研究科助教。恐竜の繁殖行動や子育ての研究を中心に、恐竜の進化や生態を研究している。恐竜の卵化石を探して、世界中を飛び回る。



訳者

吉田三知世 (よしだ・みちよ)

京都大学理学部物理系卒業。企業勤務ののち英日・日英の翻訳家として独立。訳書にマンロー『ホワット・イフ？』、フォーブズ『ヤモリの指』、シュービン『あなたのなかの宇宙』（以上早川書房）、クリース『世界でもっとも美しい10の物理方程式』（日経BP社）、ドラーニ『おぼろげな物理学』『動物たちのすごいワザを物理で解く』（インターシフト）などがある。

目次

監訳者序文 (小林快次)

第1章 歴史、起源、そして恐竜の世界

第2章 恐竜の系統樹

第3章 恐竜の解剖学

第4章 恐竜の生態と行動

第5章 鳥類の起源

第6章 大量絶滅とその後

資料/用語解説/参考文献/和英索引/英和索引

創元社 <http://www.sogensha.co.jp/> (本社) 大阪市中央区淡路町4-3-6 TEL(06)6231-9010(代) FAX(06)6233-3111 (東京支店) 東京都千代田区神田神保町1-2田辺ビル TEL 03-6811-0662(代)

創元社申込書 この注文書にて最寄りの書店へお申し込みください。書店ご不便の場合は直送もいたします。

**恐竜の教科書** — 最新研究で読み解く進化の謎

ダレン・ナيش [著]

ポール・バレット [著]

ISBN978-4-422-43028-7 C1045 定価 (本体 4,500円+税)

冊 申し込みます

取り扱い店名

ご住所 〒 \_\_\_\_\_

お名前 フリガナ \_\_\_\_\_ TEL ( ) \_\_\_\_\_